

2024 年度事業報告書

公益財団法人 広島YMCA





2024/12/10 オスロにて

ひとりがよくなると世界はきっとこう変わる。
ひとりが「よくなる」と、どんなコトが起きるだろう。
ひとりが「よくなる」と、
その人と出会った誰かがうれしくなる。
つまり、その人もきっと「よくなる」。
そして「よくなる」の繰り返しは社会や世界を
よりよく変えていくチカラになると思うのです。
その人と出会った誰かが「よくなる」
そんな出会いとつながりをYMCAは
これからも大切にしたいと考えています。
「よくなる」の連鎖はやがて
社会や世界を変えていくチカラとなっていく。
そしてきっと平和を形にしていける原動力となっていく。

SDGs × YMCA

グローバル・パートナーシップ

YMCA はポジティブネットのある 豊かな社会を創造します。

持続可能な開発目標（SDGsエス・ディー・ジーズ）とは、2015年9月に国連サミットで採択された2030アジェンダの開発目標です。17の目標・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（Leave no one behind）世界の実現を誓っています。

国内外で広がる貧困や格差、紛争や気候変動の課題、子どものいじめや虐待など、世界の共通課題に向けて、YMCAも国内外のグローバルなパートナーシップを活用し、多様な連携を通じて世界を変える一翼を担います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



Vision

YMCA が実現したい世の中の姿

互いを認め合い、高め合う
「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

— Positive Net —

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、
善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。
課題の多い社会のなかで、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。
私たち日本の YMCA は、グローバルなネットワーク基盤を活かして
ポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

Value

YMCA がビジョン実現に向けて、提供を約束する価値

したい何かがみつき、誰かとつながる。
私がよく、かけがえのない場所。

みつかる

Encounter

つながる

Connect

よくなる

Transform

Personality

YMCA が備えているべき個性、らしさ

心をひらき、わかち合う。
前向きで、まわりを惹きつける
魅力を持つ。

ごあいさつ



会員の皆様、いつも広島Y M C Aの公益活動（運動）をお支えいただき、心より感謝申し上げます。

2024年5月22日の臨時常議員会にて、広島Y M C Aの総主事を拝命し、年度途中からではありますが、公益財団法人広島Y M C Aとしての活動を展開してまいりました。

2024年度の大きな活動としては、国際交流プログラムの再開があげられます。年度当初の4月には韓国の蔚山Y M C Aが創立50周年を迎え、蔚山Y M C Aの合唱団が広島公演を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていたハワイ・ホノルル交流、ドイツ・ハノーバーとの交流が、2023年度の一部再開に始まり、2024年度は、ほぼ従来通りの平和・国際交流プログラムとして展開できるようになったことを大変うれしく思います。

そして12月には、1956年広島Y M C Aの講堂で設立された原爆被害者団体協議会（現日本被団協）がノーベル平和賞を受賞し、オスロで開催される授賞式に日本Y M C Aの支援代表として広島Y M C Aから職員を派遣することができました。

被爆80年を前に、広島県・広島市・各N P Oなどの活動とも共同し、多くの平和に関する活動も展開できたことが2024年度の活動の大きな特長といえるかと思います。

そして、1月17日に天に召された故黒瀬真一郎名誉理事長を偲んで、2月20日に「感謝と祈りの会」を執り行うことができました。生前の広島Y M C Aへの献身的なご奉仕、ご尽力に対し心から感謝を申し上げ、これまでのご功績に敬意を表し、また平和に対する熱い想いを継承していくことを強く心に誓いました。

厳しい社会状況の中にある広島Y M C Aではありますが、公益性の高い活動を継続していくという大きな課題はもちろんのこと、Y M C Aが大切にしてきたクリスチャンスピリット（Y M C Aらしさ）の部分を、一人ひとりの会員の皆様が生きがいをもって感じていただけるような社会をめざしていきたいと考えています。

どうぞ温かいご支援とご協力を賜りますよう心からお願いいたします。

公益財団法人 広島Y M C A
理事長 家守治司

■2024年度 公益財団法人 広島YMCA 活動実績

2024年

4/20 (土)	蔚山YMCA創立 50 周年記念 蔚山YMCA合唱団コンサート
5/ 5 (日)	原爆の子の像建立記念式典 (広島女学院大学協力/職員有志)
5/24 (金)	「戦争も核兵器もない平和な世界を」市民の集い2024を実施
6/21 (金)	広島YMCA総主事就任式
6/21 (金)	広島YMCA会員総会
7/22 (月) ~7/31 (水)	ハノーバー―広島国際交流「Global Youth Friendship」(受入)
7/24 (水) ~8/ 5 (月)	ホノルル―広島国際交流「Let's Get Together」(派遣)
8/ 4 (日) ~8/ 8 (木)	広島YMCAインターナショナル・ユースピースセミナー開催
8/ 4 (日)	市民平和行進 (広島県被団協・広島県生協連協力)
8/ 5 (月)	核兵器禁止条約締約国会議とNPT再検討会議に向けて (NPO協力)
8/ 6 (火)	平和の灯ろう流し
8/19 (月) ~8/21 (水)	横浜YMCAピースキャンプ (支援サポート)
10/ 6 (日)	広島YMCAチャリティーバザー開催
10/25 (金)	広島YMCA創立記念礼拝
11/ 1 (金) -2025/2/28 (金)	広島YMCA国際協力募金 キックオフスタート
11/13 (水) -11/16 (土)	広島―ICAN ACADEMY開催 (広島県支援)
11/16 (土)	世界YMCA・YWCA合同祈祷集会 (呉YWCA主管)
11/23 (土・祝)	インターナショナル・チャリティーラン (スタジアムパーク・旧中央公園にて再開)
12/ 1 (日) -12/25 (水)	Amazonみんなでサンタクロースプロジェクト開始
12/ 7 (土) -12/14 (土)	ノーベル平和賞受賞式 被団協支援職員派遣 (オスロ)
12/ 8 (日) -12/15 (日)	広島YMCA国際協力募金・街頭募金活動①②

2025年

2/5 (水)	全国YMCA総主事会 被爆証言会 (被団協・佐久間理事長)
2/9 (日)	京都大学YMCA地塩寮 ユースリーダー平和交流会
2/20 (木)	黒瀬真一郎名誉理事長を偲ぶ会 (広島YMCA主催)
2/24 (月・祝)	日本ジャーナリスト協会 オスロ報告会 (職員報告)
2/26 (水)	YMCAピンクシャツデー (全国YMCA協働)
3/11 (火)	3.11東日本大震災を忘れない追悼の集い(広島市社協協力)

1) 平和教育活動

広島市の被爆体験を次世代に継承し、核兵器廃絶につながる学びや世界の紛争地域の状況や支援の必要性について、実際に世界の若者と対面し、議論を通して今後の課題について学びました。

① Y M C A ユースピースセミナーの実施

8月4日から8月7日の期間、広島 Y M C A ユースピースセミナーが開催され、国内外の若者が広島に集まり平和についての学びを深めました。平和記念礼拝・被爆証言・平和記念公園における慰霊碑めぐりや資料館見学・原爆の子の像千羽鶴献納・リーダーが企画したグループワークを通して平和についての学びを深めていきました。8月6日には平和祈念式典に参加し、灯ろう流しにも参加しました。



② 平和の灯ろう流しの実施

8月6日夕方から平和の灯ろう流しを行い、150名の子ども達・ファミリー・国内外の若者たちが参加しました。夕方17:00に Y M C A に集合して、世界から送られてきた平和のメッセージが書かれた絵で灯ろうづくりを行いました。佐々木禎子さんの折鶴の話をみんなで聞いた後、平和記念公園親水テラスに向けて出発。ボランティアの方々にキャンドルを点火してもらい、元安川に浮かべて祈りを捧げました。



③ 市民平和行進

広島 Y M C A は、生協ひろしまとの共同で、1979年から市民平和行進に取り組んでいます。今年はコロナ禍も落ち着き、平和行進の実施が再開され、アリスガーデンから平和記念公園に向けて行進を行い、資料館からゴールである慰霊碑にて献花を行いました。生協ひろしま・広島県原爆被害者団体協議会（以降被団協）・広島 Y M C A の3団体が参加し、平和記念公園内で行われる献花式に市民グループの代表として参加しました。



④ 横浜 Y M C A キッズピースキャンプ受け入れ

お盆明け8/19（月）～21（水）に横浜 Y M C A の子どもたちが広島で平和を学ぶためのスタディーツアーが開催されました。広島 Y M C A は2016年からこの受け入れを担当しています。

平和公園の慰霊碑巡り、資料館の見学、被爆者の証言等を通して平和の学びを深めました。横浜 Y M C A の子どもたちが作った千羽鶴を「原爆の子の像」に献納する平和プログラムも行いました。



◆地域NPOとの協力

広島YMCAは、広島県原爆被害者団体協議会（被団協）が行う活動のサポートを行っています。2024年は計6回の「政府に対し核兵器禁止条約への批准を求める署名活動」を行いました。7つの被爆者団体では核兵器禁止条約の発効後、日本政府の批准を求め、署名活動を続けています。

2か月に1度街頭署名活動が平和記念公園の元安橋で行われ、核兵器廃絶にむけての地道な活動を続けています。



◆広島県へいわ創造機構ひろしま（HOPE）との協力

広島県と国際NGOのICANが、11月13日（水）～16日（土）の期間で開催した「広島-ICAN ACADEMY」の運営に協力し、公式記録の提供を行いました。広島YMCAが提供した記録は広島県のwebサイトにも活用されています。



◆核兵器禁止条約発効4周年を祝う平和イベント協力

広島市内で活動するNPOが協同で、核兵器禁止条約が発効された1月22日に条約発効3周年を祝うキャンドルイベントを原爆ドーム前で行いました。広島YMCAも平和活動NPOの1つとして、この活動をサポートしました。会場の設置やイベントの運営、記録などの役割を広島YMCAスタッフやリーダーたちで担いました。



◆広島県生協連との協力「戦争も核兵器もない平和な世界を」

5月24日（金）に開催されたこの集いは、行政と市民団体の連携や平和運動の強化を目的として2011年から広島市の6団体で構成される実行委員会により開催され、広島YMCAは実行委員の1つとして参加しています。

この日は、自治体関係者、市民団体、一般市民など、会場とオンラインで130名が集まり、ICAN国際運営委員兼会長の川崎哲氏による『核兵器廃絶の今後の動きについて』と言うテーマで特別公演が開催されました。



◆平和のための国際NGOおよび地域NPOとの協力

「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」「ピースボート」「核兵器廃絶をめざすヒロシマの会」などと協力し、核兵器禁止条約批准の後押しをするための共同行動（集会やイベント）を展開しました。2024年度は、日本核廃絶NGO連絡会議が主催した国連・ICAN・日本政府と各政党の党首を交えた討論会では、広島YMCAも事務局として日本の核政策に関する情報を国内外に向けて発信しました。



2) 地域奉仕活動

広島YMCAの会員の皆様、ボランティアリーダーの方々と共に、障がいのある子ども達や生活困窮状態にある方々への支援活動、チャリティープログラムを実施し、地域社会への奉仕活動を行いました。

①チャリティーバザーの実施

広島YMCAでは、10月6日（日）にチャリティーバザーを開催しました。各スタッフの趣向を凝らした模擬店、ワイズメンズクラブやガーデニアクラブを中心とした会員のみなさまによる「模擬店やのみの市」、学校法人広島YMCA学園の専門学校の学園祭も同時開催で、地域の方と一緒に盛りました。バザーの収益や学園祭の収益の一部は、YMCA青少年育成基金として寄付されました。（634,950円）



②インターナショナル・チャリティーラン

個人や企業を対象に、障がいのある子ども達の支援のためのランニングイベントを企画、参加費・協賛金は支援活動に充てられます。特に2024年度はサッカースタジアムが新設されたひろしまスタジアムパーク（旧中央公園）に5年ぶりに戻り実走大会を開催しました。

日程：11月23日（土・祝） 申込者：180名 39チーム
協賛：28団体及び個人

・株式会社飯南トータルサポート 琴引フォレストパークスキー場・株式会社市岡石油店・オタフクソース株式会社・加茂商事株式会社 サッカーショップ KAMO・株式会社金正堂・株式会社キッズ・コーポレーション広島支店・株式会社サンフレッチェ広島・シーコム・ハクホー株式会社・税理士法人広島経営センター・高瀬稔彦様・株式会社たびまちゲート広島・有限会社チームス・株式会社ナカムラ・西日本リネンサプライ株式会社 リースキン中央支店・有限会社日東ベンディング中国・ひろしま管財株式会社・広島YMCA ガーデニアクラブ・みつわビル管理株式会社・メディミール・山下江法律事務所・株式会社レガメ ユカリス湯来・株式会社糧配・広島ワイズメンズクラブ 福山ワイズメンズクラブ・呉ワイズメンズクラブ・東広島ワイズメンズクラブ・岩国みなみワイズメンズクラブ・米子ワイズメンズクラブ

全国YMCAの障がい児プログラム運営に112,260円 支援

広島YMCAの障がい児クラスの活動に261,940円 支援



②Amazon「みんなで応援プログラム」

「新生活応援プログラムの実施」

Amazonのご協力により、通販サイトを活用したチャリティーキャンペーンを広島YMCAで実施。支援物資をAmazonの通販サイトに登録し、支援を希望する方々に購入いただき、届けていただく活動を行いました。Amazonのパートナーとして、全国23のYMCAでこのキャンペーンを展開しました。2024年度はフードバンク「OYATOKO」、ルーテル広島教会が主宰する子ども食堂の「ゆりっこ」や「クレヨン」に届けることができました。



③いじめに反対するピンクシャツデーの実施

2月26日（水）ピンクのシャツや小物を身につけて「いじめ反対」のアピールを行いました。2024年度はY M C Aのすべてのランチから趣向を凝らした写真やいじめ反対のメッセージが届くようになり、この活動も年々拡大しています。

今年度は、全国Y M C A総主事会が広島で開催され、全国のY M C A総主事も共にピンクのシャツを着てアピールしました。



3) 国際交流・国際支援活動

広島Y M C Aの持つ国際的なネットワークを活用し、国際交流を促進し、合わせて海外からの来広者に対し、被爆地広島の体験を広く伝えました。また、世界で起きる自然災害や紛争地域への人道支援、開発途上国や地域への支援の必要性を広く訴え、日本Y M C A同盟を通じて国際支援を行いました。

①蔚山Y M C A創立50周年記念 蔚山Y M C A合唱団コンサート

広島Y M C Aは蔚山Y M C Aとパートナーシップを結んでいます。蔚山Y M C Aとは、1980年にパートナーシップを締結し、今年44年目を迎える繋がり深いY M C Aの一つです。

蔚山Y M C Aは今年創立50周年を迎え、4月20日（土）に広島において蔚山Y M C A合唱団の国際交流コンサートを開催しました。

広島Y M C A国際文化ホールにおいて130名の方を迎え、日本語の歌なども含め、11曲の素晴らしいステージを披露していただきました。鳴りやまない拍手の中、素晴らしい交流の時間を共に過ごすことができました。



②広島-ハノーバー青少年交流キャンプ (Global Youth Friendship)

1988年にパートナーシップ締結、1992年から国際交流プログラムとして継続していました。コロナ禍による渡航制限のため、派遣・受け入れを中止していましたが、5年ぶりに再開することができ、3名の参加者と1名の引率者を受け入れ、7月22日～8月1日の11日間で国際交流を実施しました。日本の文化体験プログラムや戦争から平和に至る歴史理解、日本人高校生とのキャンプ交流プログラム等を体験しました。



③広島-ホノルル青少年交流プログラム (Let's Get Together)

昨年度は、広島からホノルルへ学生を派遣、広島の中高校生との親交を深めました。2024年度は、7月24日から8月5日までの13日間、コロナ禍以降5年ぶりにハワイのオアフ島とハワイ島で交流行うことができました。広島からは4名の学生が参加をし、現地ホノルルの中高校生とのキャンププログラム等を通して親交を深めました。キャンプとハワイ島でのプログラム以外の日はすべてホストファミリーの家にホームステイをし、ホストファミリーと多くの時間を過ごしました。



4) 災害支援活動

2024年度の災害復興支援活動は、以下の活動が行われました。

3.11東日本大震災を忘れない追悼のつどい

広島市災害ボランティア連絡調整会議（YMCAも加盟団体の1つ）のNPOが協力して、毎年、平和記念公園にある親水テラスにてキャンドルを灯し、東日本大震災で被害に遭った方々を追悼する慰霊のイベントが2012年から続けられています。今年は東日本大震災だけではなく、能登半島地震追悼の思いも込められた集会が行われ、それぞれのNPOが集まり追悼集会が行われました。

能登半島地震緊急支援募金

被災した富山YMCA駅前センターの学童へ、「能登半島緊急支援募金」を通じて、ランチ用の割れない食器（お皿・コップ）を7月に寄贈しました。支援にあたっては、富山の学童と同世代の広島YMCAの子どもたちが被災地を思い、応援メッセージを添えました。

寄贈後、富山YMCAからも学童の子どもたちからメッセージと、富山県の県花・チューリップの球根も届けられ、交流を通じて、子どもたちが被災地を思い合い、つながる機会となりました。春には富山から届いたチューリップが広島で咲きました。



5) ボランティア・リーダー／ユース育成活動

広島YMCAの会員の皆様、市民の皆様にボランティアの機会を提供し、様々な活動を通してボランティアの育成を図りました。また、ユースが日本YMCA同盟が行うリーダー育成事業・ボランティア育成事業に参加する機会を設け支援を行いました。

◆第23回 日本YMCA大会にリーダーを派遣

11月15日～17日、日本YMCA大会（YMCA東山荘）にユースリーダーが参加し、「日本一自慢」発表で平和をテーマにしたピースセミナーの取り組みを発表。Vision2030の4本柱を満たし、若者の主体的な取り組みとして高く評価され、入賞は逃したものの多くの応援を得ました。自分たちの活動を伝え、知ってもらうことを通じて、YMCAのリーダーとしての役割を果たす機会となりました。継続的な参加や出会いが、若者の学びと成長を支えています。

◆「Y's×SDGs Youth Action」へエントリー

広島YMCA国際ユースリーダーは、2024年度「Y's×SDGs Youth Action」事業にエントリーし、約1年間にわたり企画提案から実施報告会まで取り組みました。同プログラムは、YMCAとワイズメンズクラブが協働し、地域課題解決を目指すユースの活動を助成・支援する事業です。「Youth Peace Seminar」の開催でエントリーし、世界的情勢を踏まえ広島から平和の声を発信する重要性が審査員に評価され、助成金20万円を獲得しました。

活動を通じて、多くのサポートや応援をいただくとともに、リーダーたち自身も活動への意識と主体性を高める貴重な機会となりました。報告会を終えて、全国で場所は違っても、強い思いを持った若者が、より良い社会を創ろうとしているのだと感じ、勇気をもらったと感想を語りました。

◆京都大学YMCA「地塩寮」平和学習会を支援

2月8日～9日で京都大学YMCA「地塩寮」の寮生が広島の平和スタディーツアーで来広。広島YMCAのユースリーダーと合同の研修会を行いました。平和記念公園の慰霊碑めぐり、資料館の見学、被爆者証言会などを体験し、グループに分かれ、意見交換会などを行いました。違う感性を持つ若者同士が平和について語ることで、リーダー達にはとても良い経験となりました。



6) 協力団体との活動

◆世界YMCA/YWCA合同祈禱週 広島集会

世界のYMCAとYWCAは1904年以来、11月の第2週を合同祈禱週とし、毎年一つのテーマを決めて世界の各地で礼拝や集会を行っています。

2024年度は11月11日(月)に呉YWCAが主管となり対面とZOOMのハイブリッド形式で開催され、現地参加14名とオンライン参加の数名で実施されました。テーマを「自然現象に学び、信仰をもって歩む ~水・地・火・風をテーマに~」とし、礼拝では松田基子牧師(日本ナザレン教団引退牧師)に「干ばつの中を信仰をもって歩む」と題しメッセージをいただきました。年に一度ですが有意義な祈りの時を持つことができました。



◆原爆の子の像建立記念式典 広島女学院大学と協力

1958年に建立された原爆の子の像。連休中の5月5日の建立記念日に式典を行いました。YMCAからは、チャプレンの立野牧師が開会祈禱、家守総主事が代表として挨拶、前理事長の黒瀬真一郎氏が最後の挨拶として原爆の子の像建立と原爆ドーム保存運動を行った河本一郎氏と折鶴の会の子供達のお話をさせていただきました。YMCAからは4千羽の千羽鶴を献納し、祈りを捧げました。



◆「核兵器をなくす日本キャンペーン」へのNPO協力

2月11日(火・祝)に行われた「国際シンポジウム広島」においてマーシャル諸島やポリネシアにおける核被害者が広島を訪問、松井市長や広島の被爆者と面会し、平和記念公園・資料館を訪問し、地域NPO団体と共同で公開シンポジウムを開催しました。広島YMCAは、シンポジウムの実行委員会の1つとして、この活動の支援を行いました。



◆ウクライナ避難者支援 「日本語教室」

ウクライナからの避難者の方々に対して広島YMCA専門学校が行っている日本語教室の第4クールが始まりました。この活動も3年目に突入です。中国新聞も継続的に取材を行っています。今まで日本語を学ばれている方と新たに始められる方の日本語レベルは明らかに違うため、一緒にできないこともあり、先生を増やしクラスを2つに分けて運営をしています。3年目の方々は日本の生活に慣れコミュニケーションもだいぶできるようになってきました。

また、この活動を通して日本の生活にも慣れてきており、2024年度はフラワーフェスティバルへの中国新聞のステージ参加も行ない、ジュニアライター達と共演しました。

この活動をお支えいただいている会員の皆様に感謝し、引き続きウクライナの方々への支援を継続していきます。



2024年度事業報告トピックス ノーベル平和賞ツアー同行報告

ノルウェーにあるノーベル平和賞の選考委員会は、日本時間の2024年10月11日、今年のノーベル平和賞に日本被団協＝日本原水爆被害者団体協議会を選んだと発表しました。受賞理由について「核兵器のない世界を実現するために努力し、核兵器が二度と使われてはならないと証言を行ってきた」と評価しています。

日本被団協は、広島や長崎で被爆した人たちの全国組織で、およそ70年にわたり被爆の実相を伝え、核兵器廃絶を世界に訴える活動を続けてきました。日本のノーベル平和賞受賞は、非核三原則を表明した佐藤栄作元総理大臣が1974年に受賞して以来、50年ぶり、2度目です。

戦後、広島YMCAは被爆者の方に寄り添い多くの活動を共にしてきました。今回のノーベル平和賞受賞のニュースが届き、支援を続けたきた団体としてノーベル平和賞ツアー（原水協主催）に日本YMCAの代表として広島YMCAの職員が派遣されたので、授賞式当日の様子をご報告いたします。

ツアーの概要

これまで日本被団協を応援し活動してきた多くの被爆者、被爆2世・3世、関係団体・個人が、共にオスロでお祝いをしたいということで「祝！日本被団協ノーベル平和賞授賞式行動ツアー」が行われました。この「行動ツアー」は、原水爆禁止日本協議会（以後原水協）とピースボートが、日本被団協との協議の上で協力して実施したもので、式典には参加しませんが、オスロ現地で受賞を祝い、一般に公開された関連行事に参加しました。参加者したのは被爆者、被爆2世、核兵器廃絶に取り組んできた関係団体のメンバーら54名です。

プログラムには、授賞式のパブリックビューイング、ノルウェーの平和団体主催イベントへの参加、パレードなどが含まれ、団体の中には原水協、ピースボート、日本生活協同組合連合会、核兵器をなくす日本キャンペーン、ANT-Hiroshima、日本YMCA同盟等が含まれていました。特に日本YMCA同盟は、今回のツアーの記録を担当することとなり、授賞式に参加するメンバーも含む撮影を担当しました。



日 程：2024年12月7日（土）～14日（土） 7泊8日

交 通：カタール航空利用

内 容：12月7日（土）21:55 成田発 — ドーハ乗継

8日（日）13:35 オスロ着

9日（月）平和団体によるイベント、文化行事など

10日（火）授賞式パブリック・ビューイング

ノーベル平和センター見学・パレードなど

11日（水）平和団体によるイベント、文化行事など

12日（木）15:05 オスロ発 — ドーハ乗継

13日（金）17:55 成田着～東京着

14日（土）10:30 日本YMCA同盟 ツアー報告



2024年12月10日（火）授賞式当日の活動

2024年12月10日（火） 午前 ノーベル平和賞授賞式 参加者記念写真の撮影

授賞式当日はツアーの記録とは別に受賞式に参加される方々の記録の撮影もあり、早朝8:00過ぎにはホテルを出発し、オスロの街の朝の風景を撮影しつつ、授賞式参加者が宿泊するグランドホテルで多くのマスコミの方々にもご協力いただき、記念写真を撮影。これから授賞式に向かう皆さんの歴史的な瞬間にYMC Aが関われたことは本当に感謝です。



2024年12月10日（火） 午前 ノルウェー国会議事堂における議員への被爆証言

ツアー関係では、国会議事堂におけるノルウェーの国会議員に向けての被爆証言会の撮影を行いました。

広島県被団協理事長の佐久間邦彦氏と広島で4歳の時に被爆された西本多美子さんが、ご自身の被爆体験を語られました。特に国を代表する議員の皆さんには、ロシアによるウクライナ戦争、イスラエルによるパレスチナ・ガザへの侵攻等に核兵器使用の威嚇がされ、世界的な危機的な状況であることを強く訴えられました。



2024年12月10日（火） 午後 ノーベル平和賞授賞式 パブリックビューイング

被爆証言終了後、参加者全員でオスロ図書館に移動し、オスロ市民の皆さんとパブリックビューイングを視聴しました。受賞者がオスロ市庁舎に入ると大きな拍手がおき、授賞式の様子を見つめながら、今までの苦労を思い起こしているようでした。

被団協の田中代表委員のスピーチの後には、全員がスタンディングオベーションとなり、拍手が鳴りやむことはありませんでした。被爆者の方々は目に涙を浮かべ、受賞の喜びを共有することができました。



2024年12月10日（火） 午後 授賞式終了後 記念写真撮影

パブリックビューイング会場のオスロ図書館から、記念写真撮影が行なわれる国会議事堂前広場に移動し、撮影場所の確保を行いました。記念写真は、授賞式参加者とツアー参加者の全員で撮影を行うことができました。受賞者の皆さんは大きな役目を終え、「ホッとしました」表情を見せてくれました。日本被団協にとってこの写真が後世に伝えられていくものとなることを願っています。



2024年12月10日（火） 午後 ノーベル平和センター ノーベル平和賞展 内覧会

記念写真撮影後、ツアーの皆さんはトーチパレードのスタート地点であるノーベル平和センターに移動し、翌日から始まる平和センターの展示会の内容を特別に見学させていただきました。

この展示物は、毎年授賞式の翌日からノーベル平和賞受賞者に関する作品が1年間展示されるものとして開催されています。参加者の方には自分の写真が展示されている方もおられ、案内をする平和センターのスタッフの方も一緒に撮影してもらえらることをとても喜んでいました。トーチパレードまでの時間、ノーベル平和賞の歴史を学ぶ時間となりました。



2024年12月10日（火） 夜 ノーベル平和センター主催 トーチパレード

17:30頃には、多くのオスロ市民がノーベル平和センターの周囲に集まってきました。平和センターの前にステージが組まれ、その前ではパレードに使うトーチが配られ始めていました。

とても寒いので平和センターの中で待機し、イベントが始まる際にはステージ前にイスが用意され、ツアーの被爆者の皆さんはステージ前に着席してオープニングを見学することができました。ノルウェーの著名な歌手の歌や地元の名士が挨拶を行い、2017年ノーベル平和賞を受賞したICANも事務局長のメリッサパーク氏が登壇して核廃絶をアピールしました。

いよいよ被爆者の皆さんがバナーをもって先頭に立ちパレードがスタートしました。オスロ市民も参加し、トーチパレードは何百メートルにもつながり、「ノーモアヒロシマ・ノーモアナガサキ・ノーモアウォー」のコールを行いながら、ゴールのグランドホテルをめざしました。



ゴール地点のグランドホテル2階のベランダから、授賞式に登壇した田中熙巳代表と箕牧智之さん、田中重光さんが登場すると集まった市民から大きな歓声が上がりました。被団協のメンバーも「ノーモアヒロシマ・ノーモアナガサキ・ノーモアウォー」のコールを行い、3名の方も応えてくれていました。

この後、ツアーの一行はノーベル平和センターに戻り平和委員会主催の夕食会で、地域の方や高校生平和大使などと交流を深めることができました。





千葉YMCA理事 青木く夫妻が中国新聞朝刊に掲載

▲2024年12月12日中国新聞朝刊より



▲2025年1月12日中国新聞朝刊より
1月に開催された県被団協主催 ノーベル平和賞オスロ報告会
YMCAからは、ツアーに同行したスタッフの中奥が報告。

2025年1月27日中国新聞朝刊より▶
広島県の被爆者7団体合同のオスロ報告会。
ツアーに同行したYMCAの中奥が報告。



▲2024年5月22日 中国新聞セレクトに掲載

広島YMCAにて開催のウクライナ避難者支援・日本語教室に通うヤノブスカさん親子の特集記事。日本語教室の様子も掲載。

広島避難者「将来が不安」



ロシアによるウクライナ侵攻の長期化は、国外へ避難している人々にも一層の苦難を強めている。広島市内で暮らす家族は、公的機関や民間団体の支援を小口に頼りつつ、物価高や賃金の違いにも不安を抱えつつ、出口の見えない避難生活を続けている。1面関連。

（小林可奈 頼金有美）

「これからは自立していかない」と。南部クリスティアン・アナン・アブリフ出身のアンナ・アブリフさん（38）が、昨年7月に合流した夫・ディマさん（39）の4人暮らし。光熱費は同9月が、団体の生活費支給も今春で終わる。家族の免除は続くが、住まいの公的住宅は単身用の1Kだ。約20坪の洋室で家族4人が寝食を共にしている。アンナさんは美容サロン、ディマさんは自動車関連会社で働く。ただ、物価高で生活費はかさみ「将来が不安」と本音を口をつく。もっと広い住居を探すが、家計を

2024年4月、広島市へ避難してきた。小学3、6年の子ども二人、昨年7月に合流した夫・ディマさん（39）の4人暮らし。光熱費は同9月が、団体の生活費支給も今春で終わる。家族の免除は続くが、住まいの公的住宅は単身用の1Kだ。約20坪の洋室で家族4人が寝食を共にしている。アンナさんは美容サロン、ディマさんは自動車関連会社で働く。ただ、物価高で生活費はかさみ「将来が不安」と本音を口をつく。もっと広い住居を探すが、家計を



長引く避難生活について語るアンナさん（右端）とディマさん（左から2人目）一家。家族4人が単身用の1Kで暮らす（撮影・山田尚弘）

支援が縮小 言葉の壁も 募る孤独感

無料の日本語教室に通っている。月3、4回の個別レッスンは1回1時間、少しずつ上達しているが、交友関係を広げる上ではまだ支援がある。「私は仲間が必要」。夫をもう一度返し、長引く避難生活を募る孤独感を隠さない。

夫が「心のよりどころ」という日本語教室は、同校が募金や民間団体の助成金を受けて運営してきた。しかし、支援関係の断れが続き、4月以降の運営資金は確保できていない。講師の竹原節子さん（53）は「避難している人々の思いに応えている」と現状を嘆息している。

侵襲から3年前に、ロシアとウクライナが平和に向けた交渉を始めた。数回の外に断られたウクライナは交渉を強める。大団の論議で提議する情勢に、夫は「人が殺されず、子どもたちが安全に学校に行ける環境を、平和が欲しい」と願う。

▲2025年2月24日 中国新聞朝刊掲載

YMCAが開催しているウクライナ避難者日本語教室の課題



平和教育に長年取り組む 黒瀬さん死去 誠実で何事も親身

み、広島女学院理事長や、広島YMCA理事長を歴任した黒瀬真一郎さんが、17日83歳で亡くなった。がまが華が厚い。卒業生と話す名前が、校長を歴任した。

校長が亡くなった95年には「国際高校生サミット」を広島市で開催。世界を意欲した平和教育に力を入れた。晩年に理事長を務めたNPO法人ピース・カルチャー・ビレッジ（西区）の仲間健太事務局長（39）は「若者の可能性を信じ、常に応援してくれ」と感謝する。

女学院中・高の教員で、黒瀬さんの像（中）の清掃などを40年以上続けた「広島折鶴の会」世話人の河本一郎さん（2001年死去）を支えた。広島YMCA前事務局長の中奥岳生さん（63）は「河本さんの功績を若い世代に伝える強い思いを感じた」と振り返る。

故郷の三次市では、奥田元栄・小田女美術館の理事長として文化振興に尽くした。人形作家奥田小田さん（88）東京は「誠実で何事も親身。大切な人をつくし、喪失を語らせた。福岡誠志市長も追悼のコメントを出した」（石川昌義、島美帆、林淳一郎）



▲2025年1月19日中国新聞朝刊より

黒瀬真一郎名誉理事長逝去の記事 YMCAでは2月20日に黒瀬名誉理事長を偲ぶ会を開催。500名以上にも及ぶ関係者が献花に訪れた。

2024年度事業報告書

発行 2025年6月1日
発行元 公益財団法人 広島YMCA
〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11
Tel 082-228-1151
E-mail gcc@hiroshimaymca.org
デザイン 公益財団法人広島YMCA
制作 国際コミュニティーセンター



みつかる。つながる。よくなっていく。

公益財団法人 広島YMCA

〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11 Tel 082-228-1151 Fax 082-211-0366